

大切な記念日

喜入小学校 六年 東 めぐみ

「ウーツ。」

少しこわく感じる音が町中に鳴りひびき、わたしの耳にも入ってくる。わたしは手を合わせ、目をつむり、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。」と心の中でとなえる。

今日は八月十五日、終戦記念日だ。今から七十五年前に戦争が終わった。記念日と聞くと、うれしい事や楽しい事を思い浮かべたろう。しかし戦争はとても悲しい出来事。つらい思いでこの日をむかえる人もいるだろう。

過去に起きた戦争では、平和な生活やたくさんの尊い命がうばわれた。それに加え、日本は世界でただ一つの被爆国でもある。広島と長崎に落とされた原子爆弾は、一瞬で全てのものを焼きつくしてしまった。原爆から生きのびても、放射能の影響を受け、今でも苦しんでる人びとがいる。終戦記念日が近くなると、テレビのニュースや情報番組では、戦争の事がたくさん取り上げられ、当時の悲さんな状況を映像でも目にする。わたしはそれを観るたびに、「今は本当に平和な日本になってよかったな。」とつくづく思う。

一方でわたしは、この八月十五日が新たな一歩をふみ出す日と想っている。なぜなら、この日はわたしの両親の結婚記念日だからだ。父と母はこの日、新たな一歩をふみ出し、新しい人生が始まった。この日がなければ、わたしも、姉も、妹も、この世に存在しない。家族五人の楽しい生活だってありえない。だからわたしたち家族にとって、八月十五日は大切な記念日になるのだ。

終戦記念日も、日本が新たな日本に生まれ変わる第一歩をふみ出した日とわたしは考える。戦争という悲しい経験をした日本は、日本国憲法の三つの原則の中に、「平和主義」を入れている。これは、

二度とこのような戦争をしないというちかい。平和な国を目指していくという日本の新たな第一歩を示し、それを世界に約束しているものである。今の日本で、わたしたちは幸せな生活を送ることができる。新たな一歩をふみ出して七十五年、日本は戦争のない平和な国であり続けている。しかし、世界に目を向けてみると、いまだに争い合い、たくさんの命が失われている場所もある。たくさん核兵器を保有している国だってある。日本はこれからも「平和主義」を守ると共に、平和な世界を目指すことを考えていかなければならないと思う。被爆国だからこそ、世界に訴える役割と伝える力があるのではないだろうか。

世界が国際関係をよくすれば、世界平和につながり、世界中の人びとが幸せになるだろう。それと共に、七十五年前に戦争があったという事実をわたしたちは忘れてはならない。平和な世界への希望を持ち続けるためにも、この終戦記念日があるのだとわたしは思う。終戦記念日と両親の結婚記念日。この二つの記念日をこれからも大切にしていこうと思う。